

a 学校教育目標	夢に向かって かかり合いながら 伸びていく子どもの育成	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命) 自分を変え、夢を語る児童の育成 【ビジョン】(自校の将来像) ・確かな学力を身につける学校 ・ふるさとを愛し、感謝の心を育てる学校
----------	-----------------------------	----------------------	--

評価計画				自己評価						改善方針	学校関係者評価				
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	改善方針	評価				
					h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ		
確かな学力	◎「基礎・基本」定着状況調査(タイプI)平均通過率を80%以上、30%未満の児童を0%にする。	○基礎・基本タイムやドリルタイムを実施し、学期1回確認テストで達成率を80%以上にする。	・基礎・基本定着状況調査タイプIの平均通過率	80%	82%	82.9%	103.6%	A	○【基礎・基本 3教科平均+8.9】【標準学力テスト国76.2(+3.5)算75.7(+2.8)理67.6(-3.9)平均73.2(+1.4)】【単元テスト 国97.2 算82.4 平均84.8】 ○国:書くこと 事柄の順序に沿って、接続詞を適切に使うこと、目的や意図に応じて書くことに課題。 ○算:量と測定 筋道を立てて考え、自分の考えや解決方法を説明することに課題。	○国語:書き方を示し、明確なめあてに沿って、条件(段落・字数など)付きの文章を定期的に書かせる。 ○算数:ホワイトボードを活用し、自分の考えを図や式、ことばを使って書かせて説明する指導を重ねる。 ○ドリルタイムで基本的な学習補充と個別指導を継続する。	4			・学力をいかに定着させるか、基礎・基本を身につけさせたい。 ・感性を高めるためにも、読書が大切である。テレビやマンガで育てるのではなく、読書が今の時代だからこそ、非常に大切だ。 ・少人数で目の行き届くことはよいが、子どもが求める前に手を出さないよう、教師が我慢することも必要だ。	
			・児童と職員アンケート肯定的評価 ・チャレンジウィークでの保護者アンケートによる達成率	80%	120%	115%	143.8%	A	○【児童のアンケート】10月【平均96.6%】→2月【学習時間(低中高100%)自主学習(87.2【平均93.6%】)】【職員アンケート】10月やりきる→75%、毎日する→100%自主学習→25%【平均66.7%】(2月やりきる→83.3%、毎日する→100%自主学習→83.3%)【平均88.5%】 ○【保護者アンケート】10月:家読:【平均97.2%】2月家読:【92.2%】家庭学習をしている【96.8%】【平均94.5%】 ○学習時間は全学年目標を達成できている。自主学習も個人差はあるものの10月に比べ意識し取組む児童も増えた。	○保護者と連携を取りながら、家庭学習が確実にできるように進めていく。 ○学年に応じた自学ができるようになっているが、予習を定着させるために、わかりやすく次時の予告などをする。予習につなげていく。来年度は高学年は「本日のノート」を活用する。 ○家読は個人差が大きい。読書の定着化のために、低学年を中心に読み聞かせを呼び掛ける。	4				
			・実施回数	100%	100%	100%	100.0%	A	○1学期2回、2学期2回、3学期2回、全児童の国語と算数のノートを持ち寄り、職員同士で交流を行った。本時のめあては「活動」ではなく「その時間につけたい力」につながるものでなければならないことを確認した。 ○ノート交流を行うことで、自分の授業改善につなげている。今後は児童のノートを掲示して、児童の意欲につなげていくことが課題である。	○来年度は算数科を中心に、毎学期に2回以上、計画的にノート交流を実施できるよう、研修を継続する。 ○手本になるノートや作品は、ノート交流後に掲示して全児童に紹介する。	4				
豊かな心の育成	思いやりの心を育て、社会的なルールやマナーを身につける。	◎元気の出る挨拶と返事ができる。	○意欲を高める評価方法を工夫する。	・児童と保護者・地域アンケート肯定的評価	90%	挨拶98.8% 返事79.4% 平均84.1%	挨拶100% 返事71.5% 平均84.1%	挨拶79.4% 平均93.4%	B	○【児童アンケート】【平均90.0%】(低学年95% 中学年90% 高学年87%)【職員アンケート】【平均60.0%】 ○挨拶は自分からすることに課題がある。また、子どもたちは出来ていると思って職員の評価と隔りがあるため、子ども達の意識を高めていく取組を継続する。元気のいい返事をすることに課題があり、継続して指導する。	○自ら挨拶することが当たり前になるように、家庭への啓発やこだわりを持った指導を継続する。段階的な目標を設定し、肯定的評価を重ねながら取組んでいく。 ○全校が集まる場を捉えて元気な返事や気持ちのいい挨拶ができた児童を評価することを継続する。	4			・登校時など、出会ったら必ずあいさつをしてくれる。よくしていると感じる。 ・意欲を持って取り組むよう、個別に話をすることも大切だ。
			○意欲を高める評価方法を工夫する。 ○点検表を利用し、振り返りをさせる。	・児童と職員アンケート肯定的評価	80%	80.8%	94.3%	117.9%	A	○【時間を守らずみずみずで掃除をする 達成率76.8%】(おそうじようずで賞1月受賞者)【達成率90.0%】(児童アンケート)【平均88.6%】(職員アンケート)【平均86.5%】 ○担当者の推薦をもとに、上手に掃除ができた児童や班を「おそうじようずで賞」で評価し、掃除への意欲を高めることができた。 ○なかよし班の担当職員が一緒に掃除をしながら指導することで一生懸命掃除に取り組む児童が増えている。	○掃除に意欲的に取組む姿勢が見えてきている。 ○「おそうじようずで賞」の班バージョンも作って表彰することを続け、意欲の維持向上を図る。 ○掃除時間に班の担当者が掃除場所を巡回し、指導することを継続する。				
健やかな体	進んで体力向上に取り組む。	○「体力・運動能力調査」5割の種目を全国平均以上にする。	○柔軟、腕、肩の運動等を準備運動に取り入れ、体育の時間に実施する。 ○毎朝3分間、マラソンまたは縄跳びをする。	・スポーツテストの結果を6月と2月を比較して向上した種目	5種目以上	66.7%	63.4%	60.0%	C	○2月に行った体力テストで、1・2年生男子は反復横跳び、長座体前屈、握力、50m走、立ち幅跳びの5種目で全国平均を上回った。女子は2~4年生で反復横跳び、長座体前屈、握力の3種目で平均を上回り1年生女子も4種目で平均以上となった。 ○5、6年ではほとんど種目で平均以下となった。記録更新に向けて意欲を高められなかったことが課題である。	○低学年では、体育の時間に行ったサーキット運動の工夫により、効果が表れた。このため職員の共通理解のもとに3~6年においてもサーキット運動に取組み、体力の向上に努める。 ○水泳記録会、なわとび大会、マラソン大会等に向けて、カードを利用して一人一人にしっかりと目標を持たせたことは効果的であった。継続して活用する。				
信頼される学校	感謝の心を持ち、円滑に学校統合を進める。	◎統合準備を計画的に組織的に行う。	○地域や関係校と連携しながら、行事や授業交流等を計画的に行う。	・職員、保護者、地域アンケート肯定的評価	80%		100.0%	100.0%	A	○7・8月2回、4部会に分かれて統合準備会を持った。9月低中高に分かれて3校合同で社会見学を実施し児童の交流が図れた。2学期低中高で3校合同の外国語活動を実施した。また高学年は合同の陸上記録会、民泊体験学習会を実施した。 ○小学校統合準備スケジュールに合わせ研修部・生徒指導部・保健安全部 特支援教育(教務)等で教育計画作成の準備を進める。来年度3校の研究教科を算数にする。 ○児童の学習規律、生活習慣等の共通課題を整理する。 ○地域、PTAと相談、協議をし、閉校事業を計画的に実施していく。				・子どもたちに、しんどい思いをさせないことがまず一番である。 ・少人数の中で満足しないよう、統合してもがらばってほしい。	

J: 自己評価 評価
A: 100% (目標達成) B: 80% (ほぼ達成) < 100
C: 60% (もう少し) < 80 D: (できていない) < 60

I: 学校関係者評価 評価
イ: 自己評価は適正である。ロ: 自己評価は適正でない。ハ: 分からない。